

時の流れに抗って……

作　ふ—や

登場人物

瞳　　　（ひとみ）

留美　　（るみ）

愛流　　（あいる）

男子

女子

あらすじ

瞳は友人たちに連れられて旧校舎に肝試しをしに来た。

出ると噂の美術室入るところにはある少女の姿があった。

幕が上がる

しばらく使われていない薄暗い美術室

首吊り縄がぶら下がっている

一人留美が絵を描いている

留美 ……

愛流 なんでそこまでのの？

留美 ……

愛流 もう諦めようよ

留美 ……

愛流、去る

肝試しに来た三人

女子 ちょっとしつかりしてよ、あんたが言ったんでしょ？

男子 いやいやいや、俺は別に行きたいなんて

女子 言ったでしょ

男子 ……はい

女子 ったく、ほら瞳も

男子 びびってんのー？

女子 あんただよ

男子 ……うるさい

女子 こういう時情け無いんだから

男子 ごめんなさい

女子 正直、ダサイよ

男子 ……分かったよ

瞳 ここが美術室？

男子 やっぱボロい

女子 旧校舎だしね

三人、ウロチヨロ探索する

男子、留美に触れる

男子 え

留美 誰？

男子 幽霊だー！

女子 え？

男子、逃げ出す

女子 待ってよ！（追う）

留美 待って！

（沈黙）

瞳 あの

留美 ……なに

瞳 ここ誰も使いませんよね？

留美 ……私以外ね

瞳 ……そうですか、絵上手いですね

留美 そう？

瞳 ……

留美 ちょっと？

瞳 あ、すみません見惚れてて

留美 ……瞳ちゃんだっけ？

瞳 はい

留美 絵に興味あるの？

瞳 少しは

留美 じゃあさ、美術部入ってよ

瞳 え

留美 良かったー同級生退部しちゃってさ、今私だけなの

瞳 あの

留美　ねえ入ってくれるね！

瞳　いや

留美　そうなんだよね！

瞳　……はい

留美　よし！まあまず座って座って！（椅子を用意）

瞳　（座る）

留美　今日道具持ってきてる？

瞳　いえ……

留美　そっかーじゃあさ、そこで見てて

瞳　あ、はい

留美、絵を描く

瞳　あの……なんの……絵を……描いて……

留美　緊張してる？

瞳　　そういうわけでは……

留美　そう？

瞳　　はい

（間）

留美　私ね、一緒に頑張ってきた人がいるの

瞳　　はい

留美　愛流って言うんだけどその子すごい絵が上手くてさ、私と比べられないくらい

瞳　　……今、その人は？

留美　……ああ、それは……

愛流、入ってくる

愛流　まだいたの

瞳　　え

留美 愛流、やっぱり気が

愛流 ないよ

留美 ……はっきり言わないでよ、友達でしょ？

愛流 それとこれとは話が別、早く認めてよ

留美 いやだ

愛流 変わらないね

留美 (絵を描く)

愛流 みんな受け入れてるよ

留美 ……

愛流 留美だけだよ

留美 ……

愛流 ねえ

留美 ……大人だね

愛流 留美が子供なだけ

留美 ……帰って

愛流　　なんで？

留美　　気がないなら帰って

愛流　　……その子、帰してよ

留美　　……

愛流、　　帰る

留美、　　静かに涙を流す

瞳　　大丈夫ですか

留美　　……

瞳　　あの人が

留美　　そう……ごめんね

瞳　　いいですよ

留美　　……愛流みたい、出会った頃の

瞳　　そうなんですか？

留美 落ち着いてるところとか

瞳 そうですか？

留美 あまり意見言わないところとか

瞳 ……

留美 ごめんね

瞳 ……あの、出会った頃の話、出来ますか？

留美 ……ごめん、あまりしたくない

瞳 そうですか……

留美 ちょっと風当たってくる

瞳 ……はい

瞳、外へ

留美、絵を見る

愛流、入ってくる

愛流 留美は？

瞳 ……ここにはいません

愛流 そう……あなたは？

瞳 瞳と言います……興味本位で……友達とここに来ました

愛流 それ困るんだけど

瞳 すみません

愛流 その友達は？

瞳 私を置いて、どこかに行きました

愛流 それ友達？

瞳 わかりません

愛流 ええ……

瞳 ……私は友達だと思ってます、でも向こうはそう思っているかわかりません

愛流 ……耳が痛い話ね

瞳 愛流さんは友達だと思ってますか

愛流 留美を？

瞳 はい

愛流 昔はそうだったよ

瞳 昔は……

愛流 絵を描くのが昔から好きだった……誰にも褒められな

かったけどね

かつての留美が駆け込んでくる

留美 その絵すごいね！

愛流 それはただの落書きだったんだけど

留美 どうやって描いてるの？教えてよ

愛流 初めて自分の絵をちゃんと見てくれたの

留美 これ、コンクールとかに出したら賞取れるよ！

愛流 嬉しかったの……

留美 私、留美っていうの、これからよろしくね！

愛流 それで私は美術部に入ったの、部員は少ないし、同級生
留美 しかないなかったけど楽しかった……自分の絵を見
られるのは恥ずかしいけどね

瞳 じゃあなんで

愛流 少子高齢化……あと顧問の先生がいなくなったからか
な……部員二人だけになったし

留美 くそー新入部員ゼロかー

愛流 誰も入らなかったけど留美は

留美 ま、でもコンクールに入賞すればいいよね、愛流、絵上
手いし

愛流 って……でも受からなかった

留美 審査員見る目ないなーこんなに上手いの

愛流 そのとき思ったの、留美は私のために

留美 なんてやめるの？

愛流 ……

留美 上手いのに、なんでよ

愛流 ……やめて

留美 まだチャンスあるよ頑張ろ

愛流 なんでそこまでするの？

留美 そりゃ、絵が上手いから

愛流 ……上手くないよ

留美 だからさ……頑張ろ？

愛流の目の前に現実の留美

瞳、静かに驚く

留美 お願い……やめないでよ

愛流 もう諦めてよ

留美 いやだよ……

愛流 私は絵が上手くないし、もう描きたくないの

留美 嘘つかないで

愛流 私に気を使うのやめてよ

留美 ……気なんか……使ってない

愛流 嘘

留美 もっと描きたいでしょ？私もまだ見たいの愛流の絵

愛流 それを気を使ってるっていうの！

（沈黙）

留美 瞳ちゃん

瞳 ……

留美 瞳ちゃん！

瞳 はい

愛流 人に当たらないで

留美 ……ごめん、でもこの絵見て

瞳 はい

留美 これ描きかけなの分かる？

瞳 （指差して）ここですか？

留美 そう……こここの絵描いてるんだけど、どうしても描けな

い

瞳 ……愛流さんですか？

留美 そう、（愛流に）お願いせめてこの絵だけでも

愛流 だめ

留美 ……

愛流 ……そうやって私を止めようとするのやめてよ

留美 ……

愛流 みんな受け入れてるよ

留美 いやだ

愛流 辛いのはみんな一緒

留美 違う

愛流 これで私達が優遇される事なんてないんだよ

留美 ……愛流は絵の才能あるよ、だから

愛流 ……じゃあなんで賞取れないの？

留美 それは運が悪かったから

愛流 じゃあ才能ないね

留美 違うって、才能はあるよ、だいたい潰れたのはサボり部

みたいなもんであいつらにはなんの思い入れもない

の！なんでそんなのと一緒に

愛流 留美言い過ぎ

愛流 結果残せなきゃ一緒だよ

留美 でもこの子が

愛流 留美

留美 (瞳に) ねえ分かってるよね

瞳 え、え

愛流 やめなよ

留美 ……大人だね

愛流 留美が子供なだけだよ

留美 なんで

愛流 そう思うならさ、留美が頑張れば良かったよね？なんで

いつも私ばかり……今もそうだよ、他人に責任押し付

けて……あ

留美 ……私だって頑張ったよ

留美、 気まづくなり走り去る

愛流、 泣き崩れる

男子と女子ふと現れて

男子 知ってる？うちの高校の旧校舎、出るってよ

女子 なにそれ

男子 なんでも自殺した人がいるんだって

女子 デマでしょ

男子 本当だって、美術部員の霊が出るって

女子 なんで美術部？

男子 さあ、廃部になったからじゃない？

女子 でなに？

男子 行こうよ

女子 はあ？

男子 肝試し、お前もいくよな？

瞳 え？

男子 なんか絵ばっか描いてるし、興味あるよな？

女子 いやめんどくさいんだけど

男子 いいだろー

女子 絶対腰抜けて動けなくなるでしょ？

男子 そんな馬鹿な

女子 絶対そうなる

男子と女子、去る

瞳、首吊り縄を見る

愛流 私も子供だよ……

瞳 アレって……

愛流 ……私が使った

瞳 え

愛流 受け入れられなくて

瞳 美術部のことですか？

愛流 違う

瞳 ……留美さん？

愛流 十年くらい前に愛流は……飛び降りたの

瞳 ……

愛流 私だって廃部は受け入れることが出来なかったよ、でも

仕方ないって……そう思ってたの

留美、高いところに登り飛び降りる

愛流 今の見て分かるよね？私も子供なの……だから

瞳 ……やめてください

愛流 留美は私が殺した

瞳 ……

愛流 酷いよね最低だよね、必死に私のために抗って抗って…

…そんな子を私は

愛流、首吊り縄を見る

愛流 私はどうやって償うかって考えて……

愛流、首吊り縄に手をかけようとする

瞳、それを止める

瞳 やめてください

愛流 瞳さん……私はね、どこかで留美さんを馬鹿にしてたと思うの

瞳 そんなこと

愛流 さっきの留美にいった一言覚えてる？

瞳 ……

愛流 あれが最後

瞳 ……

愛流 私はね、留美さんに感謝しかないの、ここまで人に意見
言えるようになったのも留美さんのおかげ

瞳 ……

愛流　なんで変わっちゃったんだろ……

瞳、「ゆく川の流れ」を暗唱

行く川の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

淀みに浮かぶうたかたかは、かつ消え、かつ結びて、久しく
とどまりたるためしなし。

世の中にある、人と栖と、またかくのごとし。

玉敷きの都の内に、棟を並べ、藁を争へる、高き賤しき人の
住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことか
と尋ねれば、昔ありし家はまれなり。

あるいは、去年焼けて、今年作れり。

あるいは、大家滅びて、小家となる。

住む人もこれに同じ。

所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十
人が中に、僅かに一人二人なり。

朝に死に、夕べに生まるる慣らひ、ただ水の泡にぞ似たりける。

知らず、生まれ死ぬる人、いづ方より来りて、いづ方へか去る。

また知らず、仮の宿り、誰がためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。

その、主と栖と、無常を争ふさま、言はば、朝霧の露に異ならず。

あるいは、露落ちて、花残れり。

残るといへども、朝日に枯れぬ。

あるいは、花しぼみて、露なほ消えず。

消えずといへども、夕べを待つことなし。

愛流 ……ゆく川の流れ？

瞳 ……変わらないものなんて無いですよ

愛流 ……あのさ

瞳 ?

愛流 お願い出来るかな？

瞳 なにをですか？

愛流 留美をここから解放させて

瞳 ……

愛流 お願い、私にはもう無理なの

瞳、留美の絵を見て

瞳 無理じゃないですよ

愛流 ……え

瞳 愛流さんにもやれることがありますよ

愛流 ……

瞳 この絵を完成させるんです

愛流 ……無理

瞳 え？

愛流 ……あんなこと言ったんじゃ無理だよ

瞳 できますよ

愛流 なんでそんなこと言えるの？

瞳 ……

愛流 留美のなにがわかってるの？

瞳 ……

愛流 きつと私を恨んでると思う

男子と女子が現れる

女子 瞳さ、全然自分の意見言わないよね

男子 なんなんだよ急に

女子 こいつに気を使う必要なんてないのに

男子 失礼だな、俺にだって人権あるだろ

女子 っていうかあんまり他人のこと気にしてるのも生きにくいし

男子 ……気にしないのもどうかとは思うけどね……これみたいになんか言った？

女子 なんでもない

男子 ま、人のこと全部理解しようなんて考えなくていいと思うよ、そんなことできないし

男子 それはそうだね

女子 瞳の意見なら聞く人多いだろうし

男子 根拠は？

女子 人のこと考えるから

男子 あー

女子 もう少し自分の意思に自信もったら？

男子と女子、去る

瞳 それって愛流さんの考えですよ

愛流 ?

瞳 愛流さんのイメージですよ

愛流 ……留美のことわかってないって言いたいのか?

瞳 違います

愛流 じゃあ

瞳 確かにそうかもしれませんが、愛流さんの言葉で傷つ

いたかもしれない

愛流 ……

瞳 でも、そんなことでへこたれる人ですか

愛流 だから

瞳 亡くなったのは別の理由があると思います

愛流 どういうこと？

瞳 たぶんですけど、心が弱かったら周りの流れに逆らう

ことなんてできません……私はできません、でも愛流

さんはしました……沢山の批判があったと思います、

何度も怒られたと思います……愛流さんの言葉は特に

辛かったと思います

愛流 ……

瞳 でもそれって何回も言ってたことですよ？

愛流 ……やめて

瞳 愛流さん

愛流 やめてよ！

愛流、泣き崩れる

瞳 愛流さん、私の目を見てください

愛流 無理だよ

瞳 ……いつまで無理って言うんですか

愛流 自分だけ逃げて強い方の味方になって何度も罵声浴び
せて……つくづく最低だと思うよ

瞳 愛流さん

愛流 ……あ……私は最低なんだ、結局アレも私が……逃げ
るために

瞳、無理矢理愛流の顔を上げさせる

瞳 もう逃げないでください

愛流 ……無理

瞳 無理って言わないでください！

愛流 なんで……

瞳 最後まで聞いてください

愛流
……

瞳 留美さんは優しい人です、強い人です……ただ芯が強いせいで簡単に意思を曲げることができない人なんです、納得させるのは至難の業です

瞳、絵を見て

瞳 この絵を完成させましょう

愛流 そんなので

瞳 この絵には愛流さんが必要です、愛流さんとの思い出を残したいのだと思います

愛流 そんなことでもいいの？

瞳 他にあるかもしれませんが、留美さんは愛流さんのことばかり話しています

愛流 留美……でも今どこに

瞳　そろそろですよ

留美、絵を持って高いところにいる

留美　なんでみんな受け入れられるの？

瞳　私、忘れてたんです

留美　おかしいって思わないの？

愛流　忘れてた？

留美　私がおかしいの？

瞳　私が小さい時に見た光景です

留美　みんながおかしいの

瞳　そこには屋上に立っていた女子高生が

愛流　留美？

瞳　そうかもしれません

留美 愛流の絵上手かったな――…私には真似できないくら

い

瞳 その人は絵を持っていました

留美 どうすればこう書けるんだろう

瞳 憧れてたんですよ、留美さん

瞳、留美を見る

留美 え

愛流 留美……

（沈黙）

愛流 ……危ないから降りて

留美 あっごめん（降りる）

愛流 留美

留美 ……なに

愛流 ごめん

留美 やつとわかって

愛流 この絵完成させようか

留美 あ……うん

瞳 どうしました？

留美 いや……うん

瞳 まさか、絵を完成させても考え曲げない気ですか？

留美 ……

瞳 そこは諦めてください

留美 ……納得できない

瞳 そこをなんとか

留美 ……

瞳 お願いです靴舐めますから

留美 いや気持ち悪い気持ち悪い……こんな人だっけ？

愛流 たぶん私のせい

留美 どうしたらこうなるの？

愛流 わからない

瞳 「ゆく川の流れ」って知ってますか

留美 え

愛流 留美、古典赤点だから

留美 失礼な西遊記に書かれていることぐらい

二人 方丈記！

留美 あ……すみません古典の時間寝てました

愛流 ちゃんと授業受けてよ

留美 だって眠いんだもん

愛流 あと、美術室に置き勉するのやめて

留美 あとで片付けようと思ってたし

愛流 それ何回目？

留美 うるさい

瞳 親子？

二人 違う！

瞳 ……どんなものでもずっといるのは無理なんです

留美 ……

瞳 変わらないといけないんです

留美 ……大人だね

瞳 確かに無茶な話です……今この場所で腕を切れと言われるのと同じです

（沈黙）

瞳 でも……終わっただんです

留美、深呼吸

留美 ……分かった、やる

留美、川の絵を持ってくる

愛流 それって

留美 これ飾って

愛流 留美……

留美 描いてる風に座って

愛流 ……うん！

留美、空いている部分を描く

愛流 瞳さんありがとうね

瞳 部外者なのにここまで首突っ込んで良かったんです

か？

愛流 こうでもしないと……どっちも頑固だし

留美 二人とも黙って

（沈黙）

留美 ごめんやっぱり話してて

愛流 どっちなの

留美 ごめんって

愛流 留美

留美 なに？

愛流 ごめんね

留美 いや……私も悪かった

愛流 私のせいだから

留美 いや私

愛流 私

留美 わた

瞳 集中してください

二人 ……はい

留美、しばらくして

留美 あー！（寝転ぶ）

二人 なに？

留美 描けない！

二人 は？

瞳と愛流、絵を見て

瞳 为什么呢？

留美 愛流の絵がうますぎる――私には無理だ――

瞳 頑張ってください！

留美 できない――

愛流 ……できるよ

留美 え

愛流 留美も上手いじゃん、私より上手いと思う

留美 そう……かな？

愛流 うん

留美 ……もっと頑張れば良かったのかな？

愛流 ……

留美 ……私ってダメだな――

愛流 ……そんなこと

留美 いつも誰かの力に頼ってるんだな――

愛流 そんなこと

留美 あるよね

愛流 ……

留美 しかもこんなに迷惑かけて……

愛流 ……

留美 愛流の言う通りだよ……私って子供だね

愛流 ……そう……意地っ張りでうるさくてなにするか

わからない……子供みたい

留美 言えたじゃん

愛流 でも子供なのは私も一緒……ありがとうね、留美

留美 ……なんでよ

愛流 留美のおかげで楽しかったよ

留美 ……なんか、恥ずかしいね

男子と女子が入ってくる

女子 瞳！

女子、留美を踏む

留美、苦しむ

愛流、笑いを堪える

女子 大丈夫？

瞳 あ……うん

留美 あだだだ……

愛流 留美……大丈夫？

留美 笑うな！

瞳 あの、ちょっとズレたほうが

女子 え？ここ？

留美 あああー！

瞳 もう少し

留美 はあはあ……

愛流 （笑う）

留美 笑うなー！

女子 ほんとごめん

瞳 いいよ

女子 後でなんでもするから

男子 帰ろうよー

女子 お前も謝れ！

男子 ごめんなさい！

瞳 いいよ

女子 いやほんと、このバカが逃げるから

男子 バカじゃない

女子 なにやってたの？

瞳 あーうん……帰ろうか

女子 え

瞳 後で話すよ

女子 なんで

瞳 いいから

女子 ……分かった

男子と女子、去る

瞳、礼して帰る

(間)

愛流 大丈夫？

留美 どうだと思う？

愛流 大丈夫じゃない

留美 正解……あだだ……

愛流 痛いのか？

留美 うん

愛流 死んでるのに？

留美 うん……え？死んでる？

愛流 分かってなかったのか？

留美 え、え

愛流 結構派手に死んだよ？

留美 え……あー

愛流 思い出した？

留美 死にたい……

愛流 死んでるよ

留美 そうだけどさ……え、まさか愛流も

愛流 うん

留美 ……誠に申し訳ございません

愛流 いいよ、私のせいだし

留美 ……別に死ぬ必要は

愛流 ある

留美 ないって

愛流 だったら留美もだよ？

留美 ……ごめん

愛流 ……続きやろ？これからも一緒だから

留美 これから？

愛流 地獄でも、天国でも、来世でも……時の流れに抗った

もの同士

留美　なにそれ

愛流　忘れないから

留美　……私も

留美、絵を描き始める

行く川の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。

淀みに浮かぶうたかたかは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。

世の中にある、人と栖と、またかくのごとし。

玉敷きの都の内に、棟を並べ、薨を争へる、高き賤しき人の住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことか

と尋ねれば、昔ありし家はまれなり。

あるいは、去年焼けて、今年作れり。

あるいは、大家滅びて、小家となる。

その後

瞳、絵を描いている

女子、モデルをしている

男子、女装している

女子 まだ？

瞳 あとちょっと

女子 頑張ってよ

男子 あのさ

女子 なに？

男子 これおかしくない！？

女子 まあいいでしょ

男子 良くない

女子 だいたい逃げたのアンタでしょ

男子 ……ごめんなさい

瞳 ごめんね、私のわがままに

女子 いいよ私も悪かったし

瞳 ここって無くなるよね

男子 そうなの？

女子 そうだね、立ち入り禁止になってるし

男子 不法侵入

女子 細かいことはいいの

男子 細かい？

瞳 それまでにここを覚えておきたくて

女子 ……あの二人？

瞳 そう

男子 その話本当なの？

瞳 たぶん

男子 たぶんじゃん

女子 いいでしょ別に、瞳が描きたいって言うんだから

男子 ……そうだけどさ

女子 なに怖いのか？

男子 違うって、ただ……信じるしかないなって

女子 え？

男子 だって、瞳がこんなに主張するの初めてじゃない？

女子 そうだね

瞳 ……ありがとう

二人 ……いいよ

住む人もこれに同じ。

所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十

人が中に、僅かに一人二人なり。

朝に死に、夕べに生まるる慣らひ、ただ水の泡にぞ似たりける。

知らず、生まれ死ぬる人、いづ方より来りて、いづ方へか去る。

また知らず、仮の宿り、誰がためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。

その、主と栖と、無常を争ふさま、言はば、朝霧の露に異ならず。

あるいは、露落ちて、花残れり。

残るといへども、朝日に枯れぬ。

あるいは、花しぼみて、露なほ消えず。

消えずといへども、夕べを待つことなし。

旧校舎が解体される

瞳と女子と男子、それを見る

瞳絵を抱えている

女子 間に合ったね

瞳 うん

女子 良かったじゃん

瞳 ……うん

女子 どうしたの？

瞳 ……こんなこととして良かったのかな

女子 どうして？

瞳 二人に水を差した気がして

女子 別にいいんじゃない

瞳 そうかな

男子 え！？

女子 どうしたの？

男子 アレ！

視線の先に留美と愛流

男子 なんであそこにいるの!?

女子 わかないよ!

男子 (留美と愛流に) なんでもそんなところにいるの!早く

降りて!

瞳 あ……

瞳、走り出す

女子 瞳!

男子 危ないって!

瞳、絵を掲げる、その絵には愛流の絵を描く留美の姿

留美と愛流それを見る

瞳　　忘れませんか！

女子　…：…そういうことね

男子　え、ということ？

旧校舎は壊されている

瞳は笑っている

留美と愛流の表情は見えない

その後旧校舎は壊された

その跡地に瞳だけが立っている

愛流　行く川の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあ

らず。

淀みに浮かぶうたかたかは、かつ消え、かつ結び

て、久しくとどまりたるためしなし。

女子 世の中にある、人と栖と、またかくのごとし。

玉敷きの都の内に、棟を並べ、藁を争へる、高き賤しき人の住まひは、世々を経て尽きせぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家はまれなり。

あるいは、去年焼けて、今年作れり。

あるいは、大家滅びて、小家となる。

男子 住む人もこれに同じ。

所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、

二、三十人が中に、僅かに一人二人なり。

朝に死に、夕べに生まるる慣らひ、ただ水の泡にぞ似たりける。

知らず、生まれ死ぬる人、いづ方より来りて、いづ方へか去る。

留美　また知らず、仮の宿り、誰がためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。

その、主と栖と、無常を争ふさま、言はば、朝霧の露に異ならず。

あるいは、露落ちて、花残れり。

残るといへども、朝日に枯れぬ。

あるいは、花しぼみて、露なほ消えず。

消えずといへども、夕べを待つことなし。

瞳、
絵を見て

瞳　時の流れは止められない、それでも……残るものがあるから

幕

引用

鴨長明『方丈記』
(青空文庫)

